

わたしの声が聞こえますか

おはようございます。毎週日曜日の朝早くここに来てすることのひとつに、音響の点検があります。賛美する人も、メッセージを語る人もマイクチェックをします。音響の担当者は、皆さんにきちんと声が届くように、マイクのボリュームを上げます。そのときに「聞こえますか」というセリフをよく聞きます。

この10年の間にアメリカに住んでいたことがある人なら、こんなテレビコマーシャルを見たことがあるでしょう。それは携帯電話会社のコマーシャルで、男の人が歩きながら「聞こえる？」と言うものです。広い野原の真ん中で「聞こえる？」というのあれば、人通りの多い街中で「聞こえる？」というのがあります。つまり、この携帯会社が一番どこにいてもつながりやすいことを視聴者に伝えようとしているわけです。同じように神も、私たちに「聞こえるか」と問いかけておられるのではないのでしょうか。今日の聖書箇所は、第一列王記 19:9-13 です。

19:9 彼はそこにあるほら穴に入り、そこで一夜を過ごした。すると、彼への【主】のことがあった。主は「エリヤよ。ここで何をしているのか」と仰せられた。**19:10** エリヤは答えた。「私は万軍の神、【主】に、熱心に仕えました。しかし、イスラエルの人々はあなたの契約を捨て、あなたの祭壇をこわし、あなたの預言者たちを剣で殺しました。ただ私だけが残りましたが、彼らは私のいのちを取ろうとねらっています。」**19:11** 【主】は仰せられた。「外に出て、山の上で【主】の前に立て。」すると、そのとき、【主】が通り過ぎられ、【主】の前で、激しい大風が山々を裂き、岩々を砕いた。しかし、風の中に【主】はおられなかった。風のあとに地震が起こったが、地震の中にも【主】はおられなかった。**19:12** 地震のあとに火があったが、火の中にも【主】はおられなかった。火のあとに、かすかな細い声があった。**19:13** エリヤはこれを聞くと、すぐに外套で顔をおおい、外に出て、ほら穴の入口に立った。すると、声が聞こえてこう言った。「エリヤよ。ここで何をしているのか。」

第一列王記のこの場面で、エリヤは洞穴の中に座っています。なぜエリヤは洞穴にいるのでしょうか。洞穴の中にいなければならないような事件が何か起こったのでしょうか。9節を読むと、神も同じことをエリヤに問いかけられます。神はおっしゃいます。「エリヤよ。ここで何をしているのか。」エリヤは何をしていたのでしょうか。

その答えを知るには、18章に戻らなければなりません。エリヤの話をご存じの方はそのいきさつを覚えておられるでしょう。18章で、エリヤはバアルの預言者450人と戦いました。イスラエルの民がバアルを拝むようになったので、エリヤはまことの神を礼拝するよう人々を立ち返らせたかったのです。エリヤはカルメル山の上で、バアルの預言者たちに戦いを挑みました。イスラエルの民も皆カルメル山に集まり、この戦いを見守っています。エリヤとバアルの預言者たちは、それぞれ一頭の雄牛を選び、自分の神にいけにえとしてささげました。エリヤは、バアルの預言者たちに先攻を譲ります。彼らは雄牛を祭壇に供え、いけにえを受け取ってくださいとバアルに叫びました。一日中必死に叫び、切羽詰まったのか剣で自分の身を切りつけるほどでした。一日が終わろうとする頃、何も起こらない様子を見て、エリヤは「次は自分の番だ」と言いました。エリヤは神に祈る前に、いくつかのかめに水を汲むよう命じ、雄牛にも祭壇にも水を注ぐように言いました。聖書には、水が祭壇の周りに流れ出し、溝にまで水が満ちていた、と記されています。それからエリヤは神にいけにえを受け取ってくださいと祈りました。神は天から火を送り、いけにえを焼き尽くして、これを受け取ってくださいました。その火は、いけにえの肉のみならず、祭壇の石と濡れたたきぎも焼き尽くし、溝の水まで消してしまいました。エリヤは神の御力が発揮されるのをその目で見ました。エリヤは、霊の戦いにおける大勝利を収めました。イスラエルのすべての民の前で、神の御力と偉大さを現わしたのです。けれどもエリヤはそのことをすっかり忘れてしまいます。イゼベルが預言者たちに起こったことを聞いて激怒し、エリヤに使いをよこし、「明日の今頃までにあなたの命はない。あなたを殺す」と言ってきたからです。

エリヤはどう反応したでしょう。神がたった今偉大な御力を示してくださったことを思い出さうか。神の御力に頼るでしょう。エリヤの反応を聖書はこのように記します。19:3にはこうあります。「彼は恐れて立ち、自分のいのちを救うため立ち去った。」

エリヤは神の偉大さを思い出さうか、ひとりの女の人を恐れたのです。恐怖のあまり、なんとか助かろうと逃げて洞穴に隠れました。

私たちにもこのようなことがあります。神の偉大さを身をもって体験することがあります。祈りに答えてくださった。祈っていた人が癒された。教会に来て礼拝中に神のご臨在を感じ、神がそばにいてくださることを実感した。こういう経験をして、霊的に高揚しながら教会をあとにします。その翌日に、例えば職場の上司の機嫌が悪く、仕事ができないなどと言われます。すると、すぐに不安になります。神がそばにいてくださると感じた前日のことはすっかり忘れて逃げ出してしまいます。感謝なことに、私たちが逃げ出しても、神は私たちに語りかけるのをやめたりなさいません。もう一度、11-13節を読みましょう。

19:11 【主】は仰せられた。「外に出て、山の上で【主】の前に立て。」すると、そのとき、【主】が通り過ぎられ、【主】の前で、激しい大風が山々を裂き、岩々を砕いた。しかし、風の中に【主】はおられなかった。風のあとに地震が起こったが、地震の中にも【主】はおられなかった。19:12 地震のあとに火があったが、火の中にも【主】はおられなかった。火のあとに、かすかな細い声があった。19:13 エリヤはこれを聞くと、すぐに外套で顔をおおい、外に出て、ほら穴の入口に立った。すると、声が聞こえてこう言った。「エリヤよ。ここで何をしているのか。」

神はエリヤに「今も聞こえるか。人生の暗闇の中でも、わたしの声が聞こえるか」と尋ねておられます。この箇所から、洞穴を出よう神の声のエリヤに語ったことがわかります。主が通り過ぎられるので、エリヤは洞穴を出なければなりません。初めに激しい大風が吹きました。それは、山の岩を砕くほどの大風でした。しかし、主はそこにおられませんでした。次に地震がありましたが、地震の中にも主はおられませんでした。今度は火が起こりました。けれども、そこにも主はおられませんでした。

エリヤはカルメル山で神の偉大な御力を体験したところです。その日、神のすばらしい力を目にしたばかりだったエリヤは、きっと不思議に思っていたのではないのでしょうか。「神はどこにおられるのだろう。風の中にも、地震や火の中にもおられないなら、どこにおられるのだ？」聖書は、火のあとにかすかな細い声があったと語ります。エリヤはこれを聞いて、すぐにそれが神の御声だとわかりました。神は目を見張るような不思議な方法で働かれます。けれども、この洞穴の外では、神の華々しさではなく静けさに焦点があてられていたのです。

神は今も私たちに語りかけられるのでしょうか。私はそう信じます。ヨハネ 10:27には、「わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。」とあります。私たちクリスチャンには、羊飼いの声が聞こえます。耳で聞こえる声とは限りません。実際、ほとんどの場合は耳で聞こえる声ではないと思います。けれども、神は今も語っておられます。私の経験からお話しましょう。私たちが辛いときにも神の語りかけを聞くことができた証です。

2011年、私たちは宮城県に住んでおり、日本の教会のお手伝いをしていました。私たち夫婦は、日本での奉仕や生活について祈っていました。というのも、ビザの更新が近づいており、アメリカに帰国しよう神が導いてくださっているとふたりとも感じていたからです。そのときは、独立宣教師として働きをしていて、アメリカに帰って宣教団体に属しなさいと神が私たちに語っておられると思いま

した。こうして、アメリカに帰国するつらい決断をしました。私たちが日本を離れた5週間後、2011年の震災と津波が起きました。日本の惨状を伝えるニュースを見て心が痛みましたが、神が私たちのためにご計画を持っておられることもわかっていました。震災の1カ月後、私は宮城県に戻って被災者支援活動に参加することができました。日本にいたときに知り合った教会で2週間、がれき撤去を手伝ったり、被災者の方々とお話したりしました。また、自分たちがお世話になった教会も訪れることができました。その教会の方々は、私たちが日本を離れていて感謝だったと言ってくれました。私の子どもたちが震災を経験しなくてすんでよかった、日本を離れる決断を神がさせてくださったことはわかっていると言ってくださいました。もし私たちが神に聞き従っていなかったら、私たち家族がたいへんな被害に遭っていた可能性もあります。津波が襲った道路の中には、私たちがよく通っていた道路もありました。震災が起こった時間や曜日を考えると、ちょうど私たちがその道路を通っていたであろう時間です。あのとき神に聞き従っていたから、今大阪の町で働きをされているのです。ここで誤解のないようにしておきたいのですが、私たちが大阪にいることと東北の震災が起こったこととはまったく無関係です。神はこれらの出来事を用いて、思いの中にいつもあった大阪の地へと私たちを帰らせてくださったのです。

私たちは、「どうして神の語りかけが聞こえないのだろう。神の声がなぜ聞こえないのか」と思うことがあります。問題は、目立ったできごとや大きな事柄の中で神が語られるのを私たちが待っていることにあるのではないのでしょうか。エリヤのように、地震や火の中に神を探すのです。もちろん、神はそのような方法でも語られます。サウロの改心を取ってみましょう。神は眩い光でサウロの目をくらまされました。その日、サウロは神の声を聞き、クリスチャンを迫害する者から教会の指導者へと方向転換しました。モーセもそうです。モーセは荒野を歩いていたときに、燃える柴を見ました。炎は柴を焼き尽くさず、モーセに語りかけました。その光の中にも柴の中にも神がおられたのです。ただし、ほとんどの場合、神はかすかな細い声で私たちに語られると思います。

誰かがささやきかけてきたらどうなりますか。もしトラビスが今マイクの電源を切って、私がささやき声で話し始めたとしたら、前のほうに座っている方は聞こえるかもしれませんが、後ろの方の皆さんはまったく聞こえないでしょう。ではどうしたらよいでしょう。私が話している近くに移動しなければなりません。神が私たちにささやかれるとき、それは、神の近くに來なさいと私たちに言うておられるのです。神はエリヤにも、神の声が聞こえるように洞穴から出なさいとおっしゃいました。エリヤは自分のいたところから、神のおられるところへ移動しました。神は、今日私たちにも、神の近くへ來なさいとおっしゃいます。何かつらいことがあったら、自分のいる場所を見渡してみてください。神の近くにいますか。神から離れてしまっはいませんか。神はどこかに行ってしまったりなさいませんか。神はいつもそばにいて、私たちのことを待っておられます。神のそばに來なさいと、私たちに語りかけてくださいます。

神は私に語りかけておられるのでしょうか。

皆さんの中には、自分に聞こえているのは本当に神の御声だろうか、それとも、自分の願望が語っているだけだろうか、という疑問を持っている方もおられるでしょう。それが神の御声かどうか見分ける4つの方法があります。

1. 神が語りかけておられるなら、聖書に反する内容は決してありません。アメリカで犯罪が報じられるときに、よくこういうことを聞きます。自分の子どもを全員殺した犯人が、神に命令されたと言うのです。神が誰かを殺すように命令されたと思うなら、それは神ではないと断言できます。聖書に、殺してはならないとあるからです。明日銀行強盗をするようにと神に命じられたと思うなら、それは神の声ではありません。聖書に、盗んではならないとあるからです。上司に嘘をつくように、とか噂を広めるように、などと神が言うておられると思うなら、それは神の声ではありません。みことばに反する内容だからです。

2. それは、賢明な内容でしょうか。神は、私たちが賢明でないことをするように導かれませんか。例えば、仕事をやめて一日中ゲームに明け暮れなさいと神が言っておられると私が思ったとしましょう。それは、賢い選択ですか。私には養わなければならない家族もいるのに、ゲームをずっとしていたい・・・それは神からの導きではないでしょう。けれども、宣教師になるよう神に示されたと思うなら、それは賢明なことです。また、隣人を愛するように神が言っておられると思うなら、それも知恵のあることです。
3. 自分に与えられた才能や賜物にあてはまる内容でしょうか。有名な歌手になるから今から外で歌いなさいと神が語ってくださったと信じることはできますが、もしまったくの音痴なら、神からのことばでないとわかるでしょう。私はただ有名になりたいだけかもしれません。聖書は、「大声で叫び、喜び歌い、」と語りますが、その歌声を聞く人がみんな喜ぶとは限りません。日曜学校を教えるように導かれていると思いますか。それ自体はすばらしいことですが、子どもが嫌いなら、与えられた才能や賜物にあてはまりますか。あなたが子どもを好きでないなら、子どもに関わる奉仕をすることを神は命じられないでしょう。
4. 成熟した信仰者たちもあなたに与えられたことばを認めますか。神から何かを語られたと思うなら、身近にいる成熟したクリスチャンに意見を聞いてください。それがみことばに反しないか、賢明な内容か、与えられた才能や賜物にあてはまるかをしっかり見極められるよう助けてくれるでしょう。私たちが OIC に来ると決めたとき、たくさんの成熟したクリスチャンと話しました。日本にいる人、アメリカにいる人、両方に話をしました。神から聞いたことを確認したかったのです。私たちの決断が身勝手に不純な動機でないことを確かめたいと思いました。神が語ってくださったのかどうか知りたいと思ったら、信頼できる人に話してください。2~3人に話すのがよいでしょう。神からこのように示されていると思うけれど、それは私にとってよいことだと思いませんか、と聞いてみましょう。そして、いっしょに祈ってもらいましょう。

最後にひとつお話をしたいと思います。このお話にはいくつかのバージョンがあるようですが、その言いたいことは同じです。ふたりの男性がニューヨークの町を歩いていました。町は騒音だらけです。タクシーのクラクションの音、たくさんの人の話し声、ラッシュアワーの天王寺を思い浮かべれば、似たような状況です。このふたりのうち、ひとりにはニューヨーク出身です。もうひとりには田舎者で、ずっと虫の研究をしてきた人です。ふたりが歩いていると、虫の研究をしてきた人がもうひとりに言いました。「今の聞こえた？」もうひとりには答えます。「何が？」田舎者が言います。「コオロギだよ、聞こえないかい？」都会人は驚いた様子で、「こんなにうるさいのに、どうやってコオロギの声なんて聞こえるのさ？」と尋ねました。もうひとりにはそれに答えず、ポケットに入っていた小銭をつかんで地面に投げつけました。すると 10 人ほどが立ち止まり、自分が小銭を落としたのではないかと確認したのです。田舎者はもうひとりに言いました。「人には、自分の聞きたいことが聞こえるんだ。」

イエスの御声に耳を傾けていますか。御声を聞こうとしていますか。それとも、この世が作り出すあらゆる音を聞いていますか。人生の騒音に気が散っていますか。日々の生活のせいで注意散漫になっていませんか。立ち止まって、神に耳を傾けていますか。皆さん、どうか立ち止まって、他のものをすべて忘れて聞いてください。神のかすかな細い声に耳を傾けてください。最後に皆さんにお尋ねします。あなたは何に耳を傾けていますか。

では祈りましょう。